

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>「人間力ある人づくり」を目指して</p> <p>1 生徒一人ひとりを把握し、多様で組織的な教育活動を個に応じた展開する。</p> <p>2 普通科および工業に関する専門学科の併設を生かした教育活動を展開する。</p>	<p>1 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成26年度、総じて生徒たちは充実した学校生活を送ってくれた。一泊研修（1年生）、校外学習（2、3年生）、インターンシップ（2年生）、文化祭、体育祭、研修旅行（2年生）等の学校行事においては、積極的・意欲的に参加し大きな成果に結びついた。部活動では前年度に引き続き、女子ハンドボール部や機械工作部が京都代表として近畿大会や全国大会に出場することができた。また、鉄道研究部においては、地域の各種催しに、ミニ鉄道運行を通じて参加し、学校と地域の連携に貢献してくれた。 3年生の進路状況は、就職については求人数の増加と粘り強い丁寧な指導により、ほぼ希望通りの内定を得ることができた。大学進学についても、AO入試や推薦入試、一般入試でほぼ希望の進学先に合格することができた。ここ数年続いていた国公立大学の合格者が途切れたことは残念であるが、指導体制は充実してきている。 <p>2 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 中途退学・転学者数は、年次ごとに減少してきているものの、1年生の転退学数が10名を超える状況がある。この数を更に減少させる取組みが必要である。入学時の学力を向上させることを目指した教育環境のさらなる充実を図るとともに、生徒の規範意識を育て、本校の経営方針の「人間力の育成」を全教職員の意識共有により、個々の重点目標を具現化することが重要である。 	<p>本年度学校経営の重点（短期経営目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 原級留置、中途退学、転学等による進路変更の生徒数を更に減少させる。 2 基本的な生活習慣を確立し、規範意識を高め、規律正しい学校生活の実現に努める。 3 生徒一人ひとりの学習意欲を喚起し、個に応じた指導により学力を伸ばす取組を充実し、確かな学力を育む。 4 工業科の学科改編初年度の生徒を迎え、既存学科の生徒とともに、工業教育推進の教育体制を一層確立し、学校全体で系統的進路指導の充実を図る。 5 「人間力の育成」に係る大きな側面である部活動、特別活動、自主活動をより一層推進する。 6 本校教育活動において保護者、中学校、地域等への広報をより一層推進する。 7 特別支援教育に係る文部科学省の研究指定校として、教職員全体で生徒の自立に向けた研究を推進して実践する。 8 上記の7項目を推進するため、各分掌・教科の連携を図るとともに、全教職員が同じ方向のベクトルを共有しながら、重層かつ組織的な教育活動を実践する。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
学習指導	組織的な指導による教科指導の一層の充実	授業・考査を適切に計画し、円滑に実施する	A	B	B	・生徒・教職員ともに円滑な学習計画および学習活動が行えるよう、各分掌と調整を行いながら実施できた。
		生徒に対して授業評価アンケートを実施し、授業改善に役立てる	B			・2学期に多数の講座でアンケートを実施できた。さらなる授業改善に向けていかに活用を行うかの検討が必要である。
		公開研究授業を実施し、指導力の向上を図る	B			・11月に公開授業週間として実施したが全体的に参観者が少なかった。他の授業との調整を行う等環境の整備を行い、より充実した交流を通して指導力の向上につなげる工夫が必要である。
		シラバスを生徒等へ提示し、計画的な学習指導に資する	B			・科目登録時にコース・科目の選択の参考として、開講予定科目のシラバスを提示した。より有効に使われるよう内容・様式の検討も必要である。
		成績不振状況改善のため、基礎学力充実講座を実施する	B			・入学後間もない時期に基礎学力を充実させることを目的とし、1年生対象で実施した。多様な状況の生徒に対応する内容と体制の検討が必要である。
		成績不振生徒を把握し、早期対応を図る	B			・教科担当より成績不振生徒の状況を報告いただき2度全体で共有をすることができた。学校体制で活用する方法を検討したい。
	生徒情報の円滑な管理	新校務システムの円滑な運営を図る	A			・特に大きな問題もなく円滑に運用できており、情報の管理も行えている。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
生徒指導	基本的な生活習慣、学習態度を確立させる指導を充実する	身だしなみの指導等において全教職員が一致した指導を実施する	C	C	B	・学期初めに点検しているが、確認し切れていない生徒がいる。服装については、2学期以降、特に女子でスカートを短くしたり、リボンを正しくしていない生徒が多い。
		生徒の実態を的確に把握し、授業規律を確立する	B			・年間を通して、授業中の携帯電話に関する指導が減少することはなかった。しかし、授業を抜け出し、廊下をウロウロしているような生徒はほとんどおらず、大半の生徒は授業には、参加できている。
		問題行動の未然防止を図るため、各分掌、教科と連携する	C			・問題行動は、1学期はそれほど多くなかったが、2学期以降増加し、未然防止が十分できなかった。
	自主性、自発性を育成する	田辺高校祭を成功させる	A	A	・それぞれの生徒が、役割を果たし、田辺高校祭は成功した。	
		部活動を活性化させる	A		・体育系部活動で近畿大会や国体に出場した生徒がいた。また、体育系文化系を問わず、全体的に入部率も増加している。	
		生徒会・ボランティア活動を活性化させる	A		・田辺高校祭では生徒会が積極的に活動した。また昨年同様、年間を通してペットボトルのキャップ回収にも取り組んだ。さらに、地域清掃活動にも多くの生徒が参加した。	
進路指導	希望進路の実現	生徒一人ひとりの学習意欲を喚起するとともに、学力向上に向けた取組を充実させることで希望進路の実現を図る	B	B	・進学関係セミナー、学習合宿、進学補講、就職指導等を適宜実施し、希望進路と関連させながら学習意欲の喚起と学力向上を図った。 ・日々の学習活動と進路との関連を生徒にさらに深く意識させることが課題である。	
		自己理解を深め、高校生段階での将来を見通した勤労観・職業観を養う効果的な指導を実践するとともに、積極的に企業訪問を実施し、就職指導の充実を図る	B		・生徒向け進路ガイダンスや就職セミナー等を実施することにより、勤労観・職業観の醸成を図るとともに、関係企業への訪問により求人件数の確保に努めた。 ・学校紹介による就職希望者に対しては丁寧な指導を行い、大半は年内に内定を得たものの、進学からの変更者も含め未内定のまま2月まで持ち越した者もいた。	
人権教育	人権意識の高揚及び実践的態度の育成を通して、人間力の充実を図る	生徒の学習の深化と学習内容の定着を目的に、講師による講演の実施を検討する	B			・教材を新しく作り直し、理解しやすい内容に変更し実施した。外部講師による講演では、具体的で実生活に関連した実践的態度の育成に影響を与える内容も多く、人権意識の向上につながった。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
工業教育の 充実と発展	既存学科の有終とともに新 学科へのスムーズな移行を 実現する。また、専門科目 の学習内容の充実を図ると 同時に、各種資格等の取得 率向上を目指す	具体的な教育内容精査、より効果的な 実施方法、指導者側の有用な指導体制 等について検討を進め、スムーズな移 行を目指す	B	B	B	<ul style="list-style-type: none">・改編後の科別の対応は、概ね計画通りに取り組んでいるが、今後は実施後の評価、検討等が必要となる。・来年度、再来年度と改編の完成年度へ向けた、より具体的な指導内容や方法の検討が必要である。・工業部の在り方を含め、各教科内での指導体制等、より有効な教員体制の検討が必要である。
		資格取得や検定の合格に向け、講習会 等のより効果的な指導方法を検討する とともに、計画的に実施する。また、 各種競技会にむけた指導の充実とその 体制を整備する	B			<ul style="list-style-type: none">・まだこれから実施のものも残っているが、資格取得や検定の合格に向けた講習会等は、概ね計画通りに実施することができた。・改編の年次進行に伴い、取り組むべき資格や検定、競技会等の精選や指導体制の確立等今後も継続的な検討が必要である。
	大学や企業などにおける、 実際の技術・研究に触れる 機会を企画する	大学や企業の見学会及びインターン シップなどを企画・立案・実施する	B	B	<ul style="list-style-type: none">・インターンシップは7月21日～24日に予定通り、大きな事故等なく無事終了することができた。・CSR事業での企業見学や技術探究コースの同志社大学、自動車科の大阪産業大学に加え、改編後の科別での企業や大学等の見学、そして連携授業等に取り組めた。	
		外部技術者による講演や実技指導等を 計画的に実施する	B		<ul style="list-style-type: none">・今後実施を計画しているものもあるが、実習での実技指導等ほぼ計画通りに実施できた。	
家庭・地域 社会との連 携	中高連携と広報活動を充 実する	中学生・保護者の本校に対する理解や 関心を高めるため、学校説明会や施設 見学等を再編し実施する	B	B	<ul style="list-style-type: none">・第1回学校説明会では、学校説明会1日、体験会2日の合計3日間実施し、例年を超える参加者があった。しかし、2会場にしたことや費用、各教職員役割分担に課題が残った。また、中学校教員向けの説明会や中学校での進路学習、出前授業、塾主催の説明会など本校の紹介を積極的に実施、参加する事ができた。	
	ネットワークの運営・管 理をする	ホームページ等さまざまな媒体を活用 して、生徒の活動を学校内外に紹介す る	B		<ul style="list-style-type: none">・3学期からシステムを変更して、より学校をアピールできるように改良する事ができた、今後は各教職員への新システムの操作方法の研修を行い、各教職員が積極的に活用できるようにしていきたい。PTAお知らせメール、広報誌等での広報活動も十分行えた。	
学校関係者 評価委員会 による評価	○昨年に続いて入学者選抜（前期選抜）での倍率が府内トップであった。その理由を分析して、期待に応える教育活動を進めていってほしい。 ○京田辺ものづくり工場見学会を次年度も継続し、本校の工業教育の充実や好調な就職状況とともに、地元地域と学校との繋がりを深めてほしい。 ○『たな高メール』のような、学校からの連絡がタイミング良く簡便に保護者に伝わる伝達手段は大変良いシステムだと思われる。					
次年度に向 けた改善の 方向性	○転退学防止の観点から、中学校との連携を密にし、学校全体としての取り組みも検討していく。 ○普通科の大学進学状況を活性化するため、早い時期から生徒の進学意欲を高めていくよう進学指導を充実させていく。 ○男女共同参画社会の実現に向けた学習を継続し、意見や考えの違いを受け入れて、お互いに話し合う機会をもつことで人権感覚を磨く。					

評価 A：十分達成できている（目標以上の成果があった） B：ほぼ達成できている（ほぼ目標どおりの成果があった）
 C：達成できているとはいえない（成果は見られたが目標には達していない） D：達成できていない（成果がなかった）